

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300020		
法人名	医療法人 英知会		
事業所名	グループホーム グッドスマイルズ		
所在地	山口県山口市桜島2丁目9番32号		
自己評価作成日	平成27年10月22日	評価結果市町受理日	平成28年5月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成27年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当施設では併設の医療機関の主治医・看護師と密に連携をとり、入居者の体調管理を常に行い緊急時にも速やかに対応するように努めている。
 ・お一人おひとりに応じた対応、「その人らしさ」「その方にとっての当たり前」を大切にしている。入居者ができることはしていただき、出来ないことに職員が寄り添うことを理念に掲げている。・各ユニットで介護の重度化に応じた心身機能の維持に心がけている。例えば、身体的には、ラジオ体操、歩行練習、口腔体操など。精神的には、脳活性のレクリエーションや音楽鑑賞などに取り組んでいる。
 ・食事の面においての特色は、開設当初から市場直送の新鮮なお刺身を毎昼食にお出ししていることで好評を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

台風接近で付近の川が増水した時、事業所では市担当課や公民館など関係機関に相談されて、対応について実践的な助言を得ておられ、運営推進会議で「増水時の体験をふまえた学びの課程」として実際の状況写真などを活用して報告され、対策を検討されるなど、一歩ずつ具体的に地域との協力体制を築くよう取り組んでおられます。桜や紫陽花などの花見や鯉のぼり見物、地域の夏祭りや朝市などへの外出支援の他、教会への礼拝や墓参り、法事への参加、温泉旅行など、家族や知人の協力を得て「その人には当たり前」の生活である外出の支援しておられます。少量の飲酒や銭太鼓演奏など、その人らしく楽しみ、活躍できる場面をつくって、利用者一人ひとりのペースにあった、穏やかでゆったりとした生活につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホーム理念に基づき、今までの暮らし方を続けていただけるように「その方らしさ」を大切に、職員が寄り添うようにしている。また地域との交流を図ることも心掛けている。毎朝、理念の唱和も行っている。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和して確認し、利用者一人ひとりのペースに合わせ「その人らしさ」を意識して支援に取り組むなど、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者同伴で、近所の店舗への買い物や周辺住民の方々との日常的な交流。また、小中学校の運動会に見学に行かせていただいたり、校外学習にも参加といった取り組みを行う。	自治会に加入している。利用者は職員と一緒に地域の夏祭りの見物に出かけたり、近隣の商店や朝市での買い物、散歩の時に地域の人と会話をして交流している。地域の人から野菜や果物の差し入れがある。小学4年生の総合学習を受け入れている。小学校や中学校の運動会の見学に行っている。ディサービスを利用している友人や知人、ディサービスに来訪するボランティア（日本舞踊や笑いヨガ、ギター演奏等）と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している施設だよりを法人内や屋外掲示板に貼り、地域の人々の理解を図っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員がそれぞれで取り組み、項目の内容についての理解を行っている。ケアの課題・改善点を会議や申し送りで話し合っ、レベル向上に努めている。	管理者が評価の意義について説明し、全職員に自己評価をするための書類を配付し、記入してもらい管理者がまとめている。前回の外部評価結果について協議し、利用者がその人らしくあるための支援に取り組んでいるが、全職員が評価の意義や項目を理解しているとはいえず、評価を活かした取り組みが十分とはいえない。	・評価の意義や項目の理解 ・評価を活かす取り組み

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小中学校・派出所・社協の方に新たに参加していただくようになった。2か月に1回定期開催、入居者の状態・現状やサービス提供・内部研修の報告などしている。	小中学校や派出所、社会福祉協議会に参加を呼びかけ、今年から地区社会福祉協議会副会長を新たなメンバーに加え、年6回開催している。利用者の状況や活動、行事予定、研修、外部評価結果などについて報告している。台風15号時の事業所の取り組みを報告し、災害対策について話し合い、家族会へも情報を提供している。会議での意見から活動報告で月間表を取り入れたり、メンバーから地域情報の提供を得て、ボランティアの来訪につなげるなどサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の不明な点や確認事項など必要に応じて、市の担当者に連絡・相談をして明確にしている。また、地域包括支援センターの職員とも運営推進会議等で情報交換や山口市の情報を獲得している。	市担当者とは、出向いたりFAXや電話で相談し、利用者の介護認定申請や運営などについて助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時の他、電話で新規入居者について情報交換や相談を行うなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の内部研修に「身体拘束」を取り入れ、実施している。また、何気ない言葉掛けにも拘束同様になる場合への意識付けにも取り組んでいる。玄関施錠は、インフルエンザ・感染症などの発生時期において、玄関に掲示してインターホン対応させていただいている。	マニュアルがあり、職員は内部研修で身体拘束について学んでいる。研修欠席者には資料を配布して管理者が説明し、全職員が理解して身体拘束のないケアに取り組み、法人のアンケートを活用して確認している。スピーチロックについて気になるところは管理者が指導したり、職員同士で注意し合っている。玄関は施錠について日頃から管理者が話題として投げかけ、外に出たい利用者には職員と一緒に付き添って外出したり、気分転換を図るなどの工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項の「身体拘束」同様に内部研修を行ったり、虐待防止への意識を高め、見過ごされることがないように注意を払っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在すでに成年後見人制度を利用されている入居者がおられたり、今後においてのこの制度を利用したいご家族もおられるため、内部・外部の研修で理解を深めていく必要がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約締結には時間を十分にかけ、入居者ご家族に不安なく入居していただけるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応体制を契約書に掲載し、ホーム玄関内の掲示し明確にしている。また、苦情受付時に速やかに処理手続きを行うことを定め、解決と今後のケースや運営に生かすことに努めている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に本人や家族に説明している。面会時や年1回の家族会、運営推進会議時などで意見や要望を聞いているが、運営に反映させるような意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、ケアカンファレンス、月例会議などの場を活用し、職員間の意見交換・情報交換等を行い、記録に残している。また、日常の業務中にも意見交換等ができるようにもしている。	朝の申し送り時やカンファレンス時、月1回給与明細を渡す時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は日頃の業務の中で職員が意見を言いやすい環境づくりをしているが、会議はなく職員が意見を交わす機会が少ない。職員の意見から介護記録様式を改善したり、利用者の食事の好みを反映した委託業者に変更するなど意見や提案を運営に反映させている。	・職員が意見を交わす機会の確保
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	各自に適切な評価ができるように面接を行っている。また、労働基準法を遵守し専属の労務士による人事考課、給与査定を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修や外部研修でも実践者研修やGH職員研修などに参加する機会を通じて、職員の自己研鑽の機会を作る。また、新人職員へは担当が付き指導し、早期に業務に慣れ環境に適應できるよう配慮。	外部研修は、職員に情報を伝え、年2回勤務の一環として参加の機会を提供している。法人研修は月1回、身体拘束、プライバシー保護、インフルエンザ、介護予防、食中毒、防災、認知症の症状、摂食、嚥下等について実施している。内部研修は年3回、感染症の予防と対応などについて実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会に加入し、研修に参加することで他事業所との情報交換、ケアの参考にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時ご家族にお願いしているセンター方式の生活歴等の情報や入居後、その方の思いなどの情報を職員が細やかな声かけで得、共有することで、その人らしい環境づくりが速やかに整うように配慮している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には責任者が入居者の日常などを伝えている。また、必要に応じては電話で連絡し近況を伝えている。ご家族からの不安や要望などを聞かせていただき相互のコミュニケーション構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者ご自身・ご家族・主治医・ケアマネジャーその他関係者等から情報で包括的に検討し、その方らしい暮らしができるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とともに洗濯物干し・たたみ等の家事を行っていただいたり、時には入居者ご自身に委ねることで、支えあっているという関係を築くように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の近況を毎月一回発行の入居者だよりでご家族に送っている。また、必要に応じて電話をかけたり、面会外出時にお話する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、墓参り等への外出はご家族と連絡を取ったり、また、盆暮れに限らず外泊外出で馴染みの人や土地に行かれる機会などで、入居以前の繋がりが途絶えないよう支援に努めている。	家族や親戚の人、友人、知人等の来訪がある他、電話や手紙、年賀状、暑中見舞いなどでの交流を支援している。思い出の場所へのドライブや日曜礼拝への参加、利用していたディサービスを訪問しての馴染みの人との交流、家族の協力を得て正月の外泊や温泉入浴、馴染みの美容院の利用、墓参り、法事への参加な、馴染みの人や場所との交流が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク参加や家事作業を一緒に行くことや、ソファなどを配置し近距離での会話、仲良い入居者を隣席にするなど配慮し、気軽にコミュニケーションがとれるようにしている。また、トラブルは必要に応じて職員が仲介し穏やかな関係の継続に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去一年間では他施設への移行と医療の必要度増による転院にてサービス提供終了している。お見舞いなどで関係性の維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のなかの入居者の発言などから本人の思い・希望を聞きまた、意思表示が困難な方には表情や言動から思いをくみ取るよう努め、職員間で意見交換や情報を共有し反映するように努めている。	本人や家族から思いや意向を聞き、センター方式のシートを活用して把握に努めている 他、日ごろの関わりの中での利用者の表情や言動を介護記録に記録してカンファレンスで検討し、意向や思いの把握に努めている。困難な場合は、表情や様子から推し量り、連絡ノートで職員間で共有して、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を導入。入居者本人から聞くこと、また、入居時にご家族に記入していただくこと、その後も面会・電話等の機会などで、それまでの暮らしや入居までの経緯等を把握し情報を収集している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康管理表記録や介護記録などで常に心身の状態把握をし、申し送り時などで職員間で情報共有している。、身体的な変化は、訪問看護師に報告し医療と連携を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が本人の意向や困りごと等聞きケアカンファで計画作成者・職員が検討し「その方らしい」ケアプラン作成を行う。センター方式から24時間1週間観察記録し、プランへの反映に活かしている。医療的立場から主治医や訪問看護師の意見も常に取り込んでいる。	月に2回から4回開催するケアカンファレンスで、計画作成担当者や利用者を担当する職員が中心になって、本人の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月1回利用者を担当する職員がモニタリングを実施し、3ヶ月毎に計画作成担当者と全職員でモニタリングを実施し、6ヶ月毎に計画の見直しを行っている他、状態の変化があるなど必要時にはその都度見直しを行って、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、毎月のバイタルチェック表、プランの達成状況の有無と実施の詳細を記録し、評価している。また、プランの見直しに反映させている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス利用者であった入居者にとって馴染みの場所であるデイの関係を続けること、また、他の入居者にも声掛けをし、デイの行事に参加することで、楽しさの共有に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元で生活をされた方は近隣の散歩や馴染の市場等への買い物に行かれたり、また、教会信者の入居者は教会関係者との往来つながりを通して信心を継続されている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居者ご自身・ご家族の希望にてかかりつけ医を選択していただいている（現在は全入居者、協力医療機関を選択されている）。協力医療機関の訪問看護師が週1回、その他必要時には即座に対応してもらえる体制が出来ている。	本人や家族の納得を得て全ての利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。必要に応じて2週間に1回往診があり、週1回訪問看護師が来訪して、利用者のバイタルチェックや介護職への指導、助言を行っている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は介護記録に記入し、服薬指示の変更があるときは「申し送りノート」を利用して、情報を職員間で共有している。緊急時や夜間は協力医療機関と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から医療連携体制を整えて、併設医療機関の医師・看護師へ入居者の状態の連絡を密にし、必要時の対応や受診に速やかに対応できるように徹底している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時、併設医療機関の看護師・介護職員が必ずお見舞いに行き、状況の把握に努め、病院関係者と密な連絡に心掛けている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化対応の指針に基づいて説明し、同意のうえ署名捺印をいただいている。実際に重度化した場合、ご家族、主治医、訪問看護師、関係者等で話し合い、医療機関への移設も含めて、方針を共有し支援に努めている。今回1例見取りをじっししている。	契約時に「重度化対応の指針」に基づいて、移設も含めて事業所のできることを家族に説明し、同意を得ている。実際に重症化した場合や医療処置が必要になった場合は、早い段階から主治医から家族に説明し、訪問看護師や職員とも話し合っ、意向を確認している。カンファレンスや申し送りで職員間で方針を共有し、本人や家族の気持ちに添った支援をするよう取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故発生時はミーティングし記録に残し再発防止に取り組んでいる。特に、服薬ミス防止のため、配薬・与薬でダブルチェック必須。また、内外の研修の機会や年一回の救急救命講習会で実践的に取り組む。	事例が生じた場合は当日の職員が事故、ヒヤリハット報告に記録し、全職員でミーティングを行って予防法を検討し今後の事故防止に努めている。消防署の協力を得て救急救命の講習を11名の職員が受講し、内部研修や法人研修でノロウィルス対策、インフルエンザ、食中毒について学び、転倒、転落に関する書式の作成をするなど事故防止に取り組んでいるが、職員一人ひとりが応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が実践力を身につけるための応急処置や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を昼夜それぞれを想定し実施している。運営推進会議で消防団長の方からの助言をいただいて協力体制強化にも努めている。	年1回、消防署の協力を得て昼夜を想定した、消火、通報、避難誘導訓練を利用者も参加して行っている他、年1回、運営推進会議のメンバーである地域の消防団員の協力を得て事業所独自で避難誘導訓練を行っている。台風15号が接近した時には市担当課や公民館等へ相談して助言を受け、実際の対応を運営推進会議で報告して対策を検討するなど、地域との協力体制を築くよう取り組んでいるが、十分とはいえない。	・地域との協力体制の構築にむけた取り組みの継続

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが入居者の尊厳に配慮した呼称や言葉遣いをするようにしている。尊厳に反したと思われる場合への目配せも常に行っている。また、居室への入室はノックや本人の許可を得、プライバシー保護に努めている。	職員は、法人研修で人格の尊重とプライバシーの確保について学んでいる。利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応している。気になる場所があれば管理者が注意している。個人情報の管理についても配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の自己決定できる機会を多く設けて、ご自身の思いや希望が表しやすい環境づくりに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介助の際、ご自身の意向を伺い、意に副わない、拒否が見られる場合は強要しないようにしている。活動・休息のリズムもご自身の意向や体調に合わせた対応に心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方は、馴染みの美容院に外出されたり、外出できない入居者には月1回の散髪訪問の機会を利用して、その方らしいおしゃれが出来る楽しみを支援している。また、衣類を選ぶ時も好まれるものを選ぶ配慮をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけが行わず、テーブル拭・盛付・配下膳など可能な入居者と一緒に行く。また、レクの一環としてホットプレート使ったメニューやお寿司作り、おやつ作りなどの機会を通して料理段階からの楽しみや喜びの支援。	三食とも配食業者を利用し、月に2回程度は昼食を利用者と事業所で調理している(瓦そば、焼きそば、焼うどん、チャーハンなど)。利用者はその時の献立づくりや野菜切りなどの下ごしらえ、台拭き、盛付、配膳、下膳、茶碗洗いなどできることを職員と一緒にやっている。利用者の状態に合わせて刻み食やとろみを付けて提供するなどの工夫をしている。誕生日会や季節の行事では利用者の希望に沿った献立(おせち、そうめん流し、芋煮汁、栗ごはんなど)で提供している。弁当づくりをして中庭で楽しんだり、おやつづくり(豆腐白玉団子、誕生日会のケーキ、月見団子、八つ橋)、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しめるよう工夫をして支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に食事量・水分摂取量の記入を行い、個々の状態の把握に努めている。また、必要に応じて食事形態はとろみをつけたり、1口大にして適切なものに変更し食事の様子を常に確認している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施で清潔保持。自力可能な方も声掛けやその後の確認としたり、必要な方は職員がブラッシングやマッサージ等施行。定期的な義歯の漬けおき洗浄も継続。また、訪問歯科検診で個々の口腔状態を把握し必要な処置を行って頂いている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	健康管理表で排泄のチェック、個々の排泄リズムを把握している。それをもとに声掛けやトイレ誘導のタイミングを図っている。排泄の自立の可能性を視野に入れた介助に心がけている。	健康管理表や介護記録でパターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行って、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操、レクリエーションや散歩などで身体を動かす機会を1日1回は設けている。また、食生活では献立に便秘解消になるものを取り入れたり、水分補給にも配慮している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日できるようにしているが、入居者の体調やご自身の希望と意思を尊重し無理強いはいしないよう配慮している。入浴を好まれない方へは声掛けのタイミングや時間帯を変えたり、入浴剤を使ったりなどの工夫をしている。	入浴は毎日、10時30分から11時30分までの間と13時30分から15時までの間可能で、2、3日に1回、たっぷりのお湯でゆっくり職員との会話を楽しみながら入浴できるよう支援している。利用者の状態や希望に応じてシャワー浴や清拭、足浴、部分浴の支援をしている。ゆず湯や菖蒲湯で季節を楽しんでいる。希望があれば毎日入浴したり、入浴したくない人には声かけのタイミングを工夫するなど、一人ひとりに応じた入浴の支援を行っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の毎日の体調をその都度観て午睡や食後30分程度の静養を促している。また、室内照明や空調、寝具類もご本人の好みに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに個々の薬の説明書を添付、薬剤師作成の居宅療養管理指導の書類も綴じて、いつでも確認できるようにしている。また、薬の変更時の状態変化なども速やかに主治医・看護師との連携を図るようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にとって馴染で、喜びとなる趣味活動(テレビ・音楽鑑賞・カラオケ・貼り絵・オセロなど)や役割(洗濯物・掃除・食事の手伝いなど)等でその人らしい暮らしが続けられるように配慮している。また、同棟のデイサービスへ行かれ気分転換を図られる。	節分豆まき、お雛祭り、母の日、七夕、夏祭り、敬老会、クリスマス会、中庭での芋煮汁会、お誕生会、おやつづくり、SL見物、ラジオ体操、ストレッチ体操、口腔体操、脳トレ(漢字、計算、時計、迷路、塗り絵など)、貼り絵、銭太鼓、ことわざ、かるた、神経衰弱、伝達ゲーム、ピアノ演奏、合唱、デイサービスに来訪しているボランティア(日本舞踊や笑いヨガ、ギター等)との交流、献立づくりや野菜切りなどの下ごしらえ、台拭き、盛付、配膳、下膳、茶碗洗い、洗濯物たたみなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事計画を立て、無理の無い範囲の外出をしていただき、気分転換や季節感・目の保養に努めている。また、ご家族とも連携をとって入居者が安心、安全に外出できるように支援している。	季節の花見(桜、紫陽花、コスモス、紅葉)や鯉のぼりドライブ、地域の夏祭り、小学校や中学校の運動会見学、家族や知人の協力を得ての墓参りや法事への出席、教会での礼拝、一時帰宅、外泊(温泉など)、外食、行きつけの美容院の利用、近隣の散歩や商店での買い物、朝市など日常的に外出できるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、個々の小遣いをご家族等からお預かりし収支管理させていただいている。使用目的で必要がある場合はご家族に相談している。入居者の状態に応じ可能な方は、行事や外出時は職員見守りのもと買い物・支払いの機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者ご自身の希望でご家族・知人等へ電話をかけたり、かかってきた場合もスムーズに対応できるよう配慮している。電話対応援助必要な方は職員が傍で介助。また、手紙は投函などを職員が支援し、自由にやり取りできるようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	段差や障害物がなく、安心・安全に車椅子や自力歩行での移動の配慮をしている。共有スペースにソファを置き入居者が好きな場所で自由に寛げ、室温や照明にも常に配慮し居心地よい空間づくりを提供。季節の貼り絵や写真などを飾り視覚で季節を感じていただいている。	リビングは台所の傍にあり、食事の支度や片付けなどの気配を身近に感じることができる。窓からは四季折々の山の風景や、時期によってはSL機関車の往来を眺めることができる。緑のカーテンを窓に仕立てたり、ウッドデッキにプランターを設置し、壁には利用者と職員がつくった紙の干支飾りや行事の時の利用者の写真などを飾っている。利用者が思い思いにくつろぐことができるよう、玄関や廊下、テレビの前にソファを配置し、温度や湿度、喚気に配慮して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは食事の際の自席が配置されているが、ソファを設置することで入居者が好きな場所で自由に寛げる居心地の良い空間、他者交流の場となるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご自身の馴染みの品物（家具・写真・仏壇など）を持ち込まれることで、その方らしい暮らしがここでの続けられ、それが安心して穏やかに過ごすことに繋がるという意義を説明している。	ダンス、机、椅子、テレビ、鏡台、化粧箱、衣装かけ、仏壇、十字架などを持ち込み、家族の写真やジグソーパズル作品、木目込み人形、鉢花、造花などを飾って、その人らしく居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存機能や必要に応じてトイレや居室の目印を付けたり、ご自身の判断での行動が安心・安全に出来るよう配慮している。GH理念にも掲げられているできることはしていただき、できないことには寄り添うが、常に入居者の立場を尊重した生活を常に心がけている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム グッドスマイルズ

作成日：平成 28 年 4 月 30 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	全職員が評価の意義や項目を理解しているとはいえず、評価を活かした取り組みが十分とは言えない。	職員1人1人が評価について理解が出来、今後の仕事に活用できる。	今回の外部評価結果を全職員で閲覧し意義や理解を深め、改善点、目標を周知し、今後の仕事に活かし意識を高める。	1年間
2	35	職員1人1人が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	全職員が実践力を身につけるための応急処置や初期対応の定期的訓練の継続。	施設内法人内の看護師による応急処置や初期対応の研修を定期的に行い即戦力実践力を磨く。	1年間
3	36	運営推進会議のメンバーである地域の消防団員の協力を得て事業所独自で避難誘導訓練を行なっているが十分とは言えない。	地域との協力体制の構築に向けた取り組みの継続。	運営推進会議に議題を設け、地域の出席者に意見を伺うことで、より馴染みを深め、災害時にはスムーズに協力をしていただけるようお願いする。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。